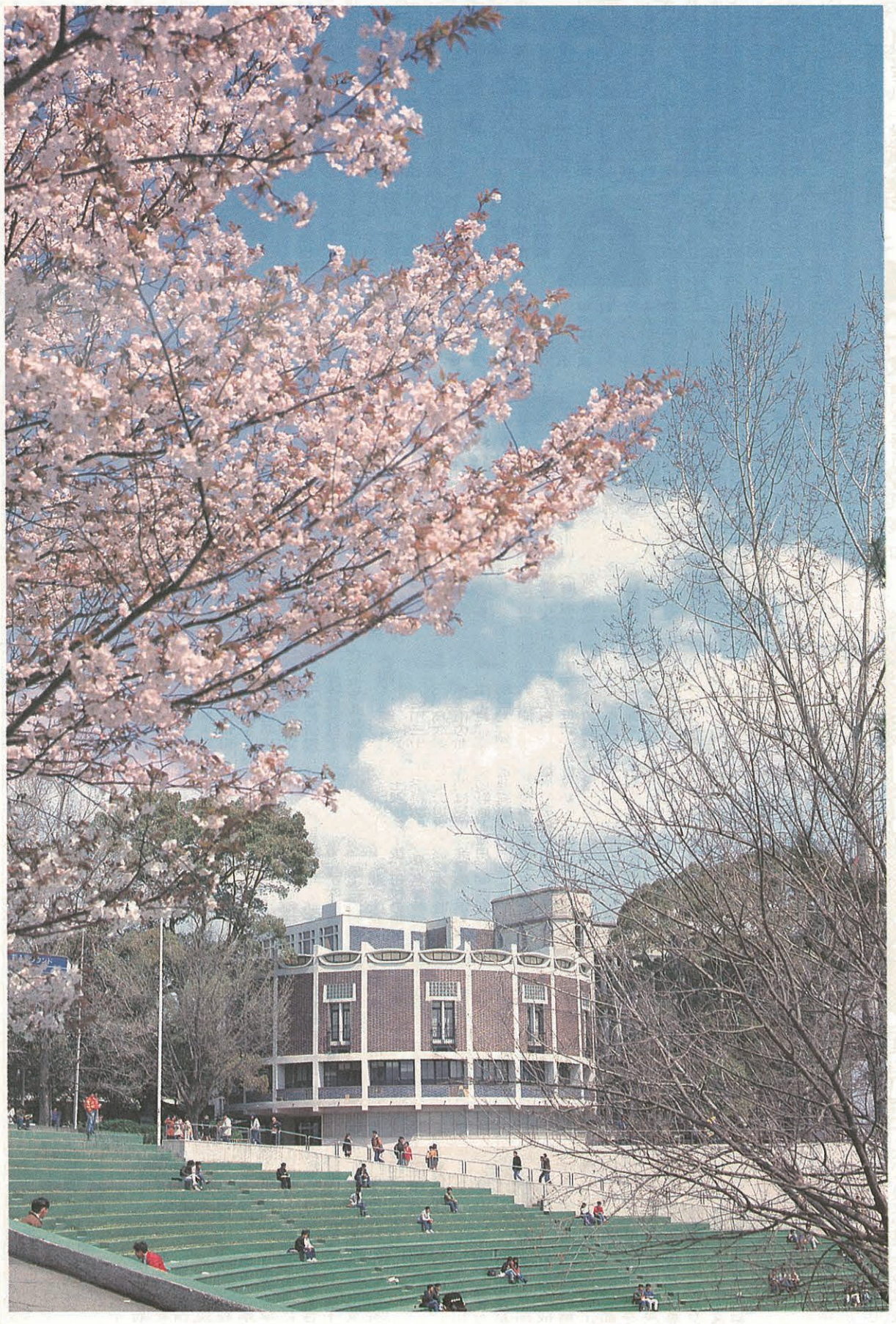
第 226 号
平成6年（1994年）4月1日

関西大学通信
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
大阪府吹田市山手町3-3-35



迎えることば

関西大学学長　大西昭男

ご入学おめでとう。諸君をお迎えして、キャンパスの人も物も草も木も、そして建ち上がったばかりのこの第2体育館もいっせいに花やいでいるところです。

しかし、いま現実社会は大変きびしい状況下にあり、そのきびしさを諸君もその身にひしひしと感じておられることと思う。諸君の先輩たちの就職戦線も苛烈な状況にある。にもかかわらず、いや、それなればこそ、諸君は、そして諸君のご家族は、諸君が大学に進んで学業を修める道を選びとられた。諸君の責務は重い。この中に加わっておられる外国人留学生が、後にしてきた祖国の期待を一身にになっておられるように、諸君一人ひとりもまた、ご両親はじめ多くの人たちの期待をになっておられる。何よりも諸君は、諸君自身の期待をになっている。このことをどうかこの四年間肝に銘じていてもらいたい。君を信じるものは誰よりも君自身であり、君に期待するものは誰よりも君自身である。考えられる限りの期待を君自身にかけ、そして限りなく君自身を信じることである。

大学は受動的に知識を伝授される場所ではない。情報も、知識も、知恵も、進んで選びとってわがものにしていくところである。らんらんと目を輝かして見まわしていただきたい。本がある。友がいる。先生がいる。進んで近づいて、声をかけ、心を開くことだ。時間は十分にある。時間割がどんなに過密であっても、その間をすりぬけて自分の時間を見つけることはいとたやすい。課業をすりぬけて、ごまかしなさい、要領よく立ちまわるべし、といっているのではない。全力を尽くし全時間を投入しても、なお余力があり、ゆとりがあるのが青春の特権なのである。青春の時間を十全に行使していただきたい。

ここ千里山はもと桃の花園のあったところです。あの劉備玄徳、張飛、関羽の三人の若者が桃園の誓いを立てたように、諸君もこの千里山で生涯の友を見つけることだ。高槻キャンパスの新天地に学ぶ人も、関西大学百有余年の歴史の中で、総合情報学部第一回目の入学生として、栄えある特権を存分にいかして、よき書、よき友、よき師を見つけ出してもらいたい。今年からは、千里山キャンパスへ第2部の諸君も来たり加わって、新しい千里山・高槻時代の幕開けとなった。

どうか諸君自身の夢と希望をもって、わが関西大学の新しい歴史を創っていっていただきたい。

そして、新しい日本、新しい世界の創造へと展開していっていただきたい。

（R・Y）

HEADLINE

2　面　新任教員紹介
3　面　新入生歓迎特別行事
4・5面　特集　キャンパス交通問題
6・7面　総合情報学部スタート
8　面　派遣留学生を募集

千里眼

「始まり」の時、四月がめぐってきた。特に新入生の方々にとっては新しい生活の始まりである。クラス、サークル、友情、恋愛、アルバイトなど、さまざまな経験があなたを待っている▼大学生活において避けることのできない「学問」について、わずかながらの経験による私見を述べたい。「学問」の楽しさは「常識」と「非常識」の複眼思考を身につけることにあるのではないだろうか▼「○○学とはレンズである」という言葉が印象に残っている。私たちは「常識」というレンズを通して身のまわりに起こる事象を見、解釈している。ところが「学問」のレンズを通すと同じ事象の見方や意味がまったく変わり、世の「常識」からすると「非常識」ともいえる見方が可能であることに気づく。それは肉眼というレンズでは見えなかったことが、顕微鏡のレンズでは見えるという経験とよく似ている▼社会では「常識」が尊重され、大学も社会である以上同様である。ただ「学問」という場では「常識」を疑うことが尊重される。また「常識」は時代とともに変化していく▼「常識」を尊重しつつ時には「常識」を超えた軽やかなフットワークを身につける。そんな経験をしてみませんか。

大学人事

四月一日付で次の先生方が昇任される。

▼法学部
教授 今西康人
同 孝忠延夫
同 山野博史
同 山本慶介

▼文学部
教授 石坂恒
同 井上克人
同 芝井敬司
助教授 秋元秀紀

▼経済学部
助教授 松尾精彦

▼商学部
教授 安部誠治
同 池島正興
同 羽原敬二
同 廣瀬幹好

▼工学部
教授 内山寛信
同 小澤守
同 川道麟太郎
同 北嶋弘一
同 樋口誠宏
助教授 坂野昌弘
同 引原隆士
同 村中徳明
専任講師 足立啓
同 老川典夫
同 片岡昇
同 河原秀久
同 西形達明

新任教員紹介

四月一日から次の先生方が本学に就任される。

法学部 助教授 村田尚紀

昭和五十八年東京大学法学部を卒業後、一橋大学大学院で憲法学を専攻。六十三年熊本大学講師、同助教授を経て四月より本学助教授。フランスにおける授権法の実証的な研究を行った。『委任立法の研究』で博士号（法学）を取得。近年は、憲法学の方法論、歴史理論の研究に取り組まれている。趣味はテニス、野球、映画鑑賞、観劇。

文学部 教授 尾崎ムゲン

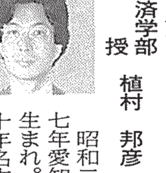
昭和十七年愛知県生まれ。京都大学教育学部卒業。同大学院を経て大阪女子大学教員を二十一年。専攻は近・現代日本教育史。本山幸彦教授の学風を受け継ぎ、教育政策の社会的基盤を実証的に追求して来られた。主著は『日本資本主義の教育像』『戦後教育史論』。関大への赴任を楽しみにしておられる。囲碁二段格。

文学部 専任講師 柴田一

昭和五十九年京都大学工学部数理工学科卒業。同大学院修士課程修了後、日本IBMに入社。以来、大和研究所において確率ペトリネットモデル、VMシステムの設計・開発、運用と性能評価などの研究に従事。開発製造情報部門の数々の賞、インフォメーション・ソリューション・サービスに関する大賞などを受賞。趣味はスキー。

文学部 専任講師 ソフィア・W・ワイゼナー

一九五五年米国生まれ。八五年ケンタッキー大学卒業後、フルブライト特別研究員としてループレヒト・カールス大学へ留学。インディアナ大学大学院で西洋美術史のMA。この間〈ドイツの心〉奨学生としてベルリン自由大学へ留学するなどその経歴は多彩。九三年度本学特任外国語講師。美術史の知見を英語教育に生かして、明るく聡明なその雰囲気とともに、学生の人気も高い。



経済学部 教授 植村邦彦

昭和二十七年愛知県生まれ。五十年名古屋大学経済学部卒業。五十六年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。熊本大学文学部講師、同助教授を経て来任。社会学博士。専攻は近代ドイツ社会思想史。著書に『シュルツとマルクス』（新評論）、『同化と解放』（平凡社）など趣味はテニスと映画鑑賞。ボーッとしているのも好き。

経済学部 助教授 長久良一

昭和三十三年福岡県生まれ。五十六年山口大学卒業後神戸大学大学院に進む。六十一年三月に同大学院中退後、富山大学経済学部に八年間勤める。二年間の米国留学の体験を持つ。専門分野は社会的選択理論、メカニズム＝デザイン、及び協力ゲームの理論で活発な研究活動を続けている。講義は難しい概念や定理を図解で易しく教えることをモットーにしている。

経済学部 専任講師 秋岡弘紀

昭和三十七年大阪府生まれ。五十九年大阪大学経済学部卒業。関西電力(株)を経て平成元年大阪大学大学院経済学研究科に入学。四年同大学院博士課程後期課程単位修得後、大阪大学経済学部助手を経て本学に着任。専攻は理論経済学。現在は公企業の民営化等の実証分析を中心に研究を行っている。趣味は旅行とオーディオ・ビジュアル一般。

社会学部 助教授 吉岡至

昭和三十三年鳥取県米子市のお生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科、同大学院政治学研究科を了えられ、(財)電気通信政策総合研究所、尚美学園短期大学情報コミュニケーション学科を経てご着任。専門領域は情報ネットワーク論、コミュニケーション政策。地味ではあるが手堅い研究手法・姿勢は、各方面から高く評価されている。

工学部 教授 石井惠一

昭和二十九年東京大学理学部数学科卒業、同大学院数物系修士課程を経て、文部省統計数理研究所研究員、大阪大学基礎工学部助教授、教授を歴任。専門は数理計画法を含むスケールの大きい数理統計学で、日本数学会の評議員なども務められた。趣味は音楽、スポーツなど幅が広いがとくに歌はお上手である。

工学部 教授 岡田隆夫

昭和三十年京都大学工学部電気工学科卒業。大学院博士課程修了後、母校の電気工学科助手。今春、名誉教授としての退官を機に本学着任。専門は超電導発電機と電力系統の計画と運用。関西電力等と共同研究で、100（KVA）の超電導発電機を京都蹴上発電所で実電力系統に接続して世界初の実用化運転試験を成し遂げたことは、後世の科学史に残る快挙である。趣味は山歩き、ゴルフを楽しむ程度。

工学部 教授 白木万博

昭和三十年姫路工業大学機械工学科卒。直ちに三菱重工業(株)に入社し、高砂研究所勤務。以来三十年間、機械振動の研究一筋に。三十九年、京都大学で工学博士。高砂研究所長、六十四年取締役に。世界最大の地震シミュレータの開発等の成果。日本機械学会副会長等を歴任。テニスやスキーを愛し、明るさとバイタリティに溢れる先生。

工学部 教授 吉川和広

昭和二十九年京都大学工学部土木工学科卒業。三十一年同大学院修士課程修了後、運輸省に入省。三十六年京都大学工学部助教授、同教授を経て本学に着任。工学博士。専門は都市・地域計画で、都市計画学会賞を受賞。平成二年にはブラジル国より名誉博士を受けた。土木学会の委員長、港湾審議会の委員の他、関西国際空港の推進に活躍。人情味に溢れた先生である。

工学部 専任講師 榎原博之

大阪府豊中市出身。昭和五十七年大阪大学工学部通信工学科卒業。同大学院博士課程を六十二年に修了し、同時に学位を取得。阪大助手を経て本学に着任。専門は計算機科学の理論分野で、特に離散アルゴリズムの設計と解析について活発な研究活動を進められている。趣味はドライブ、テニス、スキーなど。

工学部 専任講師 宅間正則

昭和三十六年京都府生まれ。平成二年関西大学大学院工学研究科博士課程後期課程を修了と同時に工学博士の学位を取得。同年四月福井大学工学部助手。本学着任を機に材料工学分野の研究に専念され、活躍が期待される。第十回工作機械技術振興賞（論文賞）および先端加工技術研究会論文賞を受賞。

工学部 専任講師 山口智実

奈良県出身。昭和五十九年東京大学工学部卒業。平成元年同大学院工学系研究科精密機械工学専攻博士課程修了と同時に工学博士。(財)京都高度技術研究所主任研究員を経て本学に着任。高速位置決め機構など精密機械工学を専門とされ、通産省のIMSプロジェクトのメンバーとして国際会議の経験も豊富。今は奥様とテニスに没頭中。

工学部 助手 伊藤秀隆

三重県出身。昭和六十三年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。同大学院工学研究科博士課程後期課程を平成六年に修了し、四月本学に着任。この間、英国サリー大学修士課程も修了された国際派。大学院では非線形数理を専攻し論文も多く、その力量を今後計算機分野で発揮される。趣味は自転車、キーボード演奏、旅行など。

工学部 助手 梶川嘉延

平成三年関西大学工学部電子工学科卒業。同大学院博士課程前期課程工学研究科電子工学専攻を五年に修了、富士通(株)入社後、本学に着任。専門は電気音響変換システムを対象にしたシステム同定及びCAD、ディジタル信号処理等である。大学院生時代の電気関係学会関西支部連合大会における講演で奨励賞を受賞。趣味は軟式テニス、歴史書の読書など。

工学部 助手 松村吉信

京都市出身。大阪大学大学院工学研究科博士課程後期課程を平成六年に修了と同時に工学博士を取得され、本学に着任。専攻は遺伝子工学、タンパク質工学。大学院では大腸菌および好熱菌における酸素ストレスに関する研究に従事され、すでに数編の論文を発表。趣味はテニス、卓球、スキー。明るく、楽しく、何事も全力でトライする青年。

工学部 助手 松本亮介

京都市出身。平成四年同志社大学工学部機械工学科卒業。同大学院博士課程前期課程修了と同時に本学に着任。院在学中はコンピュータによる温度の画像計測とそれによる熱交換器の基礎研究をされた。学部の四年間はグリークラブに所属、ベースのパートリーダをつとめ、ソロでフェスティバルホールの三千人聴衆を魅了した美声の持ち主。

工学部 助手 村上佳広

京都府出身。平成二年京都大学工学部化学工学科卒業。同大学院工学研究科博士課程に二年間在学後、本学に着任。専門はプロセス系の制御とスケジューリング。院在学中には研修員としてスイスに留学、知的生産システムの国際共同研究にも参画中の国際派。現在、学位取得に向けて邁進中である。スキー、映画観賞などを趣味とする好青年。

工学部 助手 安田陽

平成元年横浜国立大学工学部電子情報工学科卒業。今春大学院博士課程後期課程を修了し、同時に学位を取得して本学に着任。専門は、パワーエレクトロニクス、電子デバイス、カオスと様々な分野を手掛け、数多くの論文を発表。趣味は多彩で、哲学、文芸評論、音楽、美術、映画とか。個性豊かな青年。

工学部 助手 山田忠史

京都市出身。平成四年京都大学工学部土木工学科卒業。この春、同大学院博士課程前期課程を修了し、本学に着任。交通情報提供下のドライバーの経路選択行動について研究を進めている。趣味の自動車運転が高じて研究に結びついたという面がある。明朗・活発・無類のスポーツ好きでハンドボール、野球が得意。ただし最近は観戦の比重が高いとか。

キャンパス情報

関西大学博物館 開館

関西大学博物館が、本年四月設立され、一般公開されることになった。

本学は多数の考古、歴史、民俗学及び美術工芸資料を所蔵しており、考古学等資料室において講義や学内公開が実施されてきたが、一般公開への要望が高まり、このたび資料室を充実、発展させ博物館相当施設として開館することになった。重要文化財十六点、重要美術品十一点を含む約一万五千点が所蔵され、そのうち千五百点が第一・第二展示室に時代順に陳列されている。第一グラウンド北側に建っている円形の建物が簡文館で、この中に博物館があり、第一展示室に考古学資料、第二展示室に歴史、民俗、文書、美術工芸等の資料が陳列されている。

開館日は毎週月・火・木・金曜日で、開館時間は十時より十六時、夏季及び冬季休業中は閉館される。学内散策の折りにでも立ち寄り、我々の祖先の残してくれた貴重な文化遺産に接し、古代のロマンに思いをはせ、思索を巡らせば新たな発見もあるだろう。

『図録』『パンフレット』も用意されており、新入生の見学を期待している。

冊子紹介

『人権問題と大学』『「ひと」の権利』

いま世界を見渡すと、国境と体制の壁はますます低くなりいわゆるボーダレス化の時代を迎えようとしている。その一方で、良い悪いはともかくとして、民族主義や民族自決の風潮も高まりつつある。二十一世紀に向け、なおしばらくは混沌と混乱の時代が続くことは避けられない。そうした時代であればこそ、世界の基軸となっていくのは人権の思想であり、これを支えるものとして人類の平和と地球の環境が守られなければならない。

新入生諸君に配られる『人権問題と大学』と『「ひと」の権利』の二冊は、こうした視座に立って編集されたユニークな人権啓発の冊子である。前者は学術的な内容のもの。将来にわたって諸君の座右で大いに役立つはずである。後者は視覚的な情報も多く現代の若者感覚にマッチした内容。入学時に是非一読をおすすめしたい。

（人権問題委員会委員長・森井暲）

初心者向け・前期「パソコン講習会」

5月開講

情報処理センターでは、関西大学に在籍する学生を対象に、初心者向けのパソコン講習会を開催しています。

「パソコン入門」、「ワープロ入門（オアシス）」、「表計算入門（ロータス１２３）」の三コースで、定員は各二十人（計六十人）です。初心者の方を対象にした実習主体の分かりやすい内容になっています。

今年度前期の開催期間は、五月中旬～六月下旬で、各コースは、週一回（九十分）×六回開催します。

申込みは、四月十四日（木）～十五日（金）の二日間に、情報処理センター受付で先着順に受け付けます。詳細については、同事務室迄お問い合わせください。

受講料は、テキスト代込みで三千五百円です。

使用するパソコンは、情報処理センター端末機室の富士通FMR－70です。

なお、後期の講習会は、九月下旬～十月下旬に開催し、広報と受け付けは、七月頃の予定です。

（情報処理センター）

陸上競技部・萩野君に「ホップ賞」 大島鎌吉スポーツ文化賞

第六回（一九九三年度）大島鎌吉スポーツ文化賞「ホップ賞」（本学関係）に陸上競技部・萩野純人君（第1部社会学部三年次生）が受賞した。

同賞は、本学OBでロサンゼルス五輪（一九三二年）三段跳びの銅メダリストの故大島鎌吉氏を記念して創設されたもので、他に国際スポーツ文化賞（トリプル賞）、日本スポーツ文化賞（ジャンプ賞）、関西学生スポーツ文化賞（ステップ賞）がある。

今回の萩野君は昨年の日本学生対校陸上選手権で三千㍍障害を制するなどの活躍が評価されたものである。

なお、各賞の贈呈式は三月十二日、午後三時から本学百周年記念会館で行われた。

新入生歓迎 特別行事

新入生の皆さん、入学おめでとう。関西大学では、新入生の皆さんが、一日も早くキャンパス・ライフに慣れていただくために、オリエンテーション期間を設け、学部ごとに各種の行事と案内を行っています。

市民の権利擁護を、建学精神の一つの柱として設立された関西大学では、とりわけ差別撤廃と人権確立の重要性を前面に打ち出し、現代の重要課題である人権問題に全学をあげて取り組んでおります。それにもかかわらず、残念ながら、悪質な差別落書などがあり、差別行為が根絶されたとはいえない現状にあります。

我々各人が人権問題に関心を持ち、人権意識を高める不断の努力の一環として、特に新入生を対象とした「特別行事」（講演と映画）を開催します。

新入生の皆さんの多数の出席を希望します。

教学部長代理　伊藤誠宏

法学部

「コムーネ・プルーデンス」への招待

「コムーネ・プルーデンス」—諸君はこのラテン語をご存知か。早速、入学式当日の配布書類の中から、同名のパンフレットを引っ張り出してほしい。その意味とともに、この言葉が、法学部新入生のためのオリエンテーション行事の総称であることがわかるであろう。

中学や高校とは一風変わった教育の場である大学。そこに誘うための法学部の企画である。

本年度のオリエンテーション行事も一日（金）の学部案内から始まる。その場では法学部の先生方のお顔を拝見するとともに、どのような専門科目があるかを知ってほしい。

四日（月）の特別行事では森井暲教授による講演「司法と人権」があり（午前九時三十分から、第1学舎2号館B二〇一教室）、人権の最後の砦とされる司法について、それに反する側面が冤罪事件との関連で具体的に語られる。

午後の公開座談会では、コース制の選択に関しガイダンス的な話に注目して頂きたい。

五日（火）の座談会は諸君の先輩達が主役で、身近な視点からの有益なアドバイスは傾聴に値する。

文学部

「表現と人権の問題」を考える

文学部新入生の皆さん、ご入学おめでとう。君たちは自身が選んだ専門領域の学問を大学生としてこれから学んで行くわけですが、〈表現と人権の問題〉を中心に据えながら、大学生としての心がまえの参考になる幾つかの問題点を取り上げてみたいと思います。昨年、作家・筒井康隆氏が「断筆宣言」を行って話題となったことは皆さんもご存じでしょう。自作「無人警察」が高校の国語の教科書に収められるに際しての経緯に依拠するものです。かつて島崎藤村が「破戒」を絶版（昭和四年）し、その後昭和十四年に改訂版を刊行したという事実もあります。筒井氏の行為と藤村の行為に通底しているものがありはしないか。表現によって人を傷つけてはならない。これらの具体的な経緯に触れながら、人権問題を基軸として文学表現の問題を考えてみたいと思います。

講師は文学部吉田永宏教授、日時は四月二日（土）午後一時三十分から、第1学舎1号館A二〇〇教室。

経済学部

「緒方洪庵と息子たち」

幕末の大坂で緒方洪庵が蘭医学を教えた適塾からは、福沢諭吉、大村益次郎など多数の門下生が育っていった。学問の新しさと同時に「医の世に生活するは人の為のみ」を自戒とし、無報酬で種痘を行うなど洪庵の姿勢から門下生は強い影響を受けた。が、息子たちにとっても父は大きな存在だった。この講演会では、緒方洪庵とその家族をめぐるご著書で知られる西岡まさ子氏から、洪庵の次男惟準を中心として兄弟がどのような姿勢で医と人間に接し、権威主義の圧力の中でいかに父の信条に生きたかをお話しいただく。

臓器移植、遺伝子治療など最先端の医療技術をめぐって「医の倫理」が問われている今、医の原点にさかのぼって、人が人として生きる権利とは何かを見詰め直すきっかけがこの講演を通して得られることであろう。多くの学生諸君の聴講を希望する。

日時は四月二日（土）午後二時三十分から、第2学舎2号館C三〇四教室。

商学部

人権保護のフレームワーク

ひとが人権を享有し自身の財産や名誉、政治的信条などが権力の恣意的侵害から保護されるべきことは、我々現代に生きる者にとっては近代国家の基本的約束ごととして当然のことと理解されている。それは、近代市民革命の大きな成果であると同時に、現代社会の基盤を支える政治的命題でもある。しかし、現代の社会においては、自身が人権を主張することによって他者の人権が侵害されたり、具体的には直ちに意識されない侵害が行われたりと、「人権尊重」という命題だけでは解決し得ない困難な具体的問題が数多く生起している。

そのような問題の解決のためには、「人権尊重」を叫ぶだけでなく、そもそも「人権」とは何なのか、人権の享有主体は誰なのか、一方の人権を尊重することが他者の人権を侵害するのはどのようなかたちにおいてであるのか、人権相互の衝突の調整原理とはどのようなものか等のフレームワークを検討しなければならない。

講師は川端康之専任講師、日時は四月四日（月）午前十一時から、第2学舎2号館C三〇四教室。

社会学部

エイズ・メモリアル キルトが伝えるもの

ＨＩＶ（エイズウイルス）の感染力は弱く、エイズは発症者・感染者と共存できる病気である。しかし、社会は感染者を恐れ、排除しようとしている。アメリカ合衆国で生まれたメモリアルキルトの運動は、九十センチ×百八十センチの大きさのキルトを家族、友人、恋人たちが縫うことによって、エイズで亡くなった人を追悼し、その人が生きてきた証として残そうというものである。そのキルトにはエイズで亡くなった人の名まえや写真、生前に愛用した日用品、衣類、故人へのメッセージなどが縫いつけられる。そして、その運動はエイズに対する正しい知識を広め、エイズに苦しむ人やその周囲の人たちを励ますものでもある。

今回、「メモリアル・キルト・ジャパン」の西浦うららさんをお招きし、会場一面にキルトをディスプレイし、お話を聞く機会を得た。排除・忌避ではない発症者・感染者との共生のあり方を考えたい。

日時は、四月二日（土）午後一時から、会場は第1体育館。

総合情報学部

「日本の国際化と人権問題」

総合情報学部では新入生歓迎特別行事として、四月四日（月）午後一時から、高槻キャンパスの図書・教室棟三階の三〇一号教室において「日本の国際化と人権問題」と題して講演会を開催する。講師は外務省外交政策局国際社会協力部長の高野幸二郎氏を予定している。

高野氏は、一九六四年に外務省に入省、国際経済第一課長、報道課長、欧州共同体（EC）公使等を歴任して、現職にあり、新聞の人権啓発記事の座談会にも積極的に出席しておられる。

日本経済のグローバル化の進展にともない、総合情報学部の卒業生は日本以外のさまざまな地域で活躍することが期待されている。しかし、人権についての鋭い感覚なくしては、このような活動は差別や人権侵害を発生させる恐れがある。これが、この講演会を開催する理由である。

新入生のみならず、教職員の参加を期待している。

工学部

「人にやさしい街づくり」

本学部では、真にすぐれた技術者の育成をめざしており、諸君にも単に工学技術の習得だけでなく、それを社会に生かす際、発想の原点において人間愛が不可欠であることを学んでもらいたい。そのため学生生活のスタートにあたり新入生特別歓迎行事として、つぎのような講演と映画を企画した。

講演は、本学部建築学科の荒木兵一郎教授による「人にやさしい街づくり」である。先生は建築計画学の専門家で、とくに高齢者や障害者のための社会福祉施設研究の先駆者であり、「街づくり」を通して人間愛に根ざした社会への貢献を実践されておられる。

映画は「それぞれの青春の出発」と題し、大阪府教育委員会が人権啓発映画として企画したもので、諸君と同年齢の三人の青年が進路問題と人権のからみの中で苦悩し成長していくさまが描かれている。

この行事に多くの新入生諸君が参加し、何かをつかまれることを希望する。

日時は四月四日（月）、五日（火）午後三時三十分から工学部一〇八教室。

第2部

「江戸時代の朝鮮通信使」を上映

天六から千里山キャンパスへ移転後はじめてのオリエンテーション特別行事を迎える。

そこで今回は、あの評判を呼んだ歴史ドキュメンタリーフィルム「江戸時代の朝鮮通信使」（製作責任者　辛基秀氏）を新入生の諸君とともに鑑賞して、国際化時代における広い視野から、あらためてアジア隣国との関係、わけても人権意識の深化という重い課題をともに考えたい。

高松塚古墳の極彩色壁画が発見されて以来、古代史におけるわが国と朝鮮との交流には多くの関心が集まった。しかし、江戸時代両国間の善隣友好、文化交流に重要な役割を担った「朝鮮通信使」については、一般にあまり知られていない。このフィルムは、各種史料や未公開の絵巻物、ゆかりの各地に今も伝わる年中行事、民俗芸能などを分かりやすく纏めて一行の足跡を辿り、その意義を考える。

上映は四月四日（月）午後六時から、第2学舎2号館C三〇四教室で。多数の出席を期待している。

オーストラリア国立大学の留学生に 日本語・日本文化を事前研修

四年ぶりの大雪の中、悪戦苦闘の末、秀麗寮に到着できた時には二月十二日（土）夜の九時を回っていた。寮生の協力でみそ汁が温められ、おかずが電子レンジにかけられたり、大騒ぎの内に、三回目のこのプログラムがスタートした。

オーストラリア国立大学（ANU）が、東京の尚友クラブと国際交流基金の援助を得て実施するこのプログラムは、日本へ派遣された十八人の学生を本学が五週間引き受け、日本語と日本文化について研修を行い、彼らの日本滞在一年間をより有意義なものにしようとの意図のもとに実施されているものである。終了後、三人の学生は本学に留まるが、他の十五人は東北大学、一橋大学、慶応義塾大学をはじめとして、全国の九大学に一年間留学することになっている。

本学滞在中は、教室における勉強だけでなく、茶道部の協力で茶道を学んだり、高岳館で寮生と泊まりがけで座談会を、ホームステイプログラムでは本学の学生宅へと、多くの人々との出会いが企画されている。

三月二十三日の飛鳥文化研究所・植田記念館での修了式まで、京都、奈良、大阪で生の日本を見てもらった。彼らの活動が、池に投げこまれた小石によってできる波紋のように、どこまで広がっていくか楽しみである。

（国際交流センター）

第2学舎1号館 第2体育館 誠之館6号館（有鄰館） 竣工式を挙行

千里山キャンパス内で工事が行われていた第2学舎1号館、第2体育館及び誠之館6号館（有鄰館）の竣工式が、三月二十五日（金）正午から第2学舎1号館一階の学生控室において挙行された。

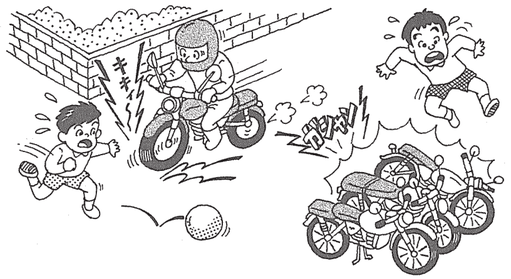
当日は、上田理事長、大西学長をはじめ、大学関係者、工事関係者など、およそ百七十人が列席し、厳粛に執り行われた。

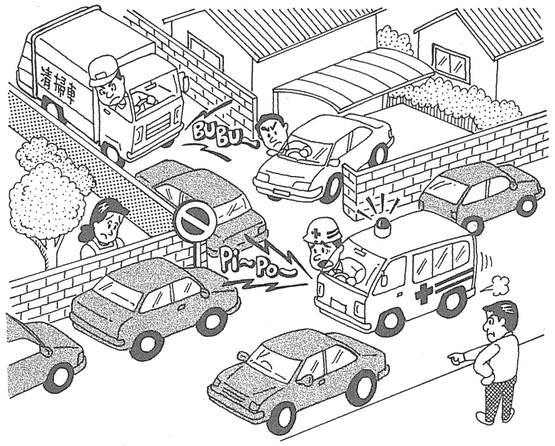
この第2学舎1号館は、第2部が千里山キャンパスに移転することに伴って建て替えられたもので、第1部の経済・商学部とともに第2部全学部の講義が行われる。

また、六、〇〇〇人が一堂に会せる三階建ての第2体育館は、千里山キャンパスの再整備計画に沿って建設されたもので、第2部学生の課外活動の場としての誠之館6号館（有鄰館）とともに今後の活用が期待されるところである。

千里山キャンパスの交通問題

このままでは、地域住民と大学の共存は危機的状況へ





本学への自動車・バイクによる通学・通勤は、特別に許可された場合を除き全面的に禁止されている。

しかし、大学の根気強い指導や説得にもかかわらず、車・バイクが大学周辺の公道上や周辺住宅街で迷惑駐車を繰り返し、近隣住民から連日のように苦情が寄せられている。このような一部の悪質な学生のために、学生自身はもちろんのこと関西大学全体が非難されているのが現状である。

そこで、第2部が移転し、新入生が入学するこの時期に自動車・バイクによる通学・通勤の禁止措置の周知徹底を図るとともに、あらたに千里山キャンパス内での一車両の一方通行措置の導入」と、「自転車専用の駐輪場」を設置することにした。関西大学全構成員の理解と協力を切望するものである。

（教学部長代理・横田勝弘）

自動車・バイクでの通学・通勤禁止

違反者には指導・説得・規制に全力

昭和五十八年から禁止措置

周辺住民に多大な迷惑

違法駐車・迷惑駐車の現状

自動車・バイクによる通学・通勤の全面禁止措置が実施されて以来、自動車・バイクでの通学者の数はかなり減少したが、残念なことに迷惑駐車は大学キャンパスから離れた地域に広がり、しかもそれらは悪質なケースが多く、周辺住民に多大な迷惑を及ぼしているのが実態である。

例えば、他人の家の玄関やガレージの前に駐車して、人や車の出入りを妨げたり、人命、財産の保全に関わる救急車や消防車等の緊急車両や、快適な日常生活を送るのに欠かせないゴミ回収車や郵便回収車等の生活車両が通行できないとして、地域住民から強い苦情が寄せられている。

大学としては、周辺に巡回警備員を配置して学生に対して直接の指導・説得・規制にあたるとともに、違反学生に対して大学、学部をあげて指導・諭旨を行っている。わずかながらその効果は現れているが、まだ充分な成果をあげるに至っていない。高等教育を受けている学生の常識を疑わざるをえないことは、教育に当たるものとして非常に残念なことである。

地域住民からの苦情の実情

学生の違法駐車・迷惑駐車に対して、近隣住民からの多くの苦情・抗議が寄せられている内容は「学生の違法駐車・迷惑駐車そのもの」と「下品性疑わせるマナーの悪さ」である。学生諸君は、自分自身だけの便利さを追求することで地域社会の人達の生活を犠牲にするケースがあることを自覚すべきである。繰り返すようだが、千里山キャンパスへ通学することになった第2部学生も含めた全学生諸君は、自動車・バイク通学が地域社会に及ぼす迷惑と生活権の侵害を考え、大学の真摯な姿勢の現れである「自動車・バイクによる通学・通勤の全面禁止措置」の趣旨を理解し、最高学府に学ぶ者としてふさわしい責任ある行動をとるよう強く訴えるものである。

責任ある行動訴え

第2部学生含め協力を

大学生としてのモラルに期待

千里山キャンパスは、阪急電車「関大前駅」から徒歩で約十分と近く大変便利な交通機関があり、交通至便の立地条件にある。

大学生も立派な社会の一員である。学生諸君は、自分自身だけの便利さを追求することで地域社会の人達の生活を犠牲にするケースがあることを自覚すべきである。繰り返すようだが、千里山キャンパスへ通学することになった第2部学生も含めた全学生諸君は、自動車・バイク通学が地域社会に及ぼす迷惑と生活権の侵害を考え、大学の真摯な姿勢の現れである「自動車・バイクによる通学・通勤の全面禁止措置」の趣旨を理解し、最高学府に学ぶ者としてふさわしい責任ある行動をとるよう強く訴えるものである。

自動車は構内一方通行

「大学前通り」は関係車両の通行禁止

自動車・バイクによる通学・通勤は全面禁止としているが、物品搬入など特別な理由により、一日平均延べ約三百台の車両が入構している。

一方、学外においては、正門から阪急電車踏切までの間の、いわゆる「大学前通り」は、一般車両の通行と通学・通勤の歩行者が輻湊して、さらに違法駐車・迷惑駐車が加わり極めて危険な状況である。その上キャンパスに通じる道路も非常に狭く、特に正門付近は多くの車両が往来し、歩行者に多大な危険性を感じさせていることも周知の事実である。

大学としてはこのような状況を少しでも緩和するために、学内に乗り入れる車両に対して大学前通りの通行を禁止し、かつスムーズな車両の通行と歩行者の安全な歩行を確保する一つの方法として上記の学内一方通行措置を取ることにした。

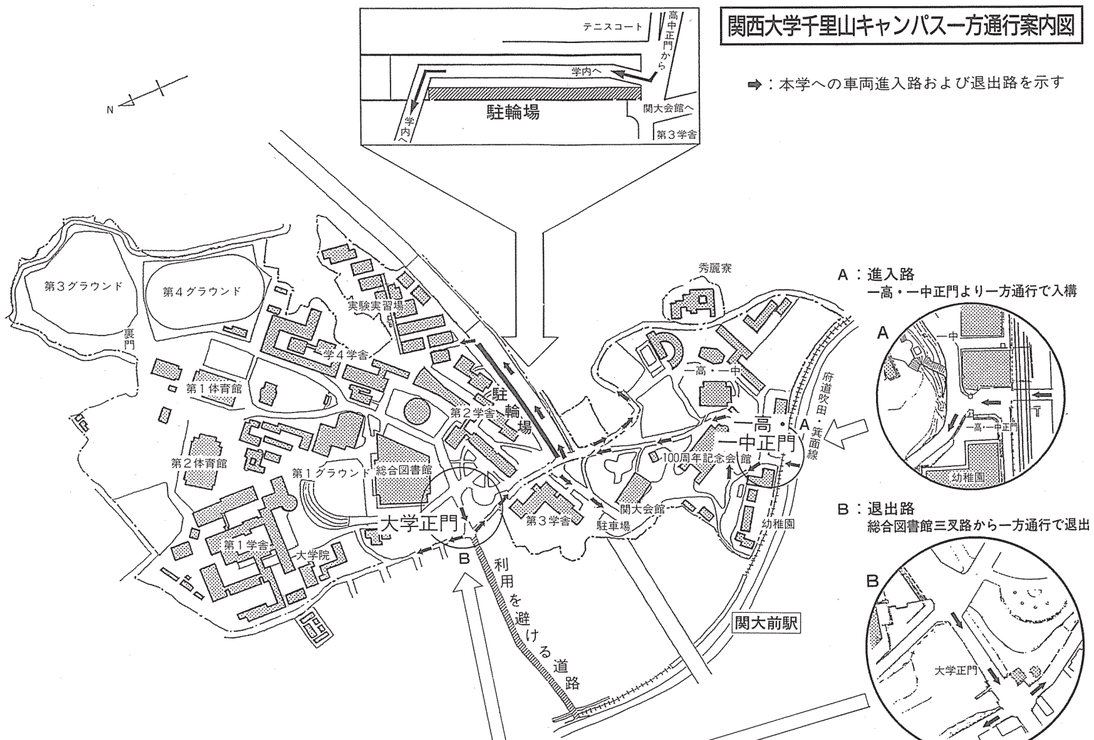
自転車専用の駐輪場を設置

本学では、近年キャンパス内の学舎や厚生施設等周辺に自転車があふれ、学内の教育環境をはなはだしく悪化させているのみならず、それらの施設利用者にとって危険な状況になりつつある。そこで、あらたに駐輪場（上記見取図）を設置し、学内の教育環境の整備を行うことにした。

今後自転車を利用される学生並びに教職員は、次の要領で手続きをし、利用券と利用シールをもって、新しく開設する駐輪場の指導員の指示に従い駐輪されることを遵守されたい。

駐輪場利用手続き要領

自転車による通学希望
↓
学生証と印鑑を持って各所属学部事務室で手続き
↓
利用券と利用シールの発行
↓
駐輪場の利用（1年更新）



平成6年度行事予定表

◇…学務関係…◇

【学部】

4月1日　学年始　前期開始　入学式
2日　新入生指導行事期間（5日まで）
6日　前期授業開始
6月5日　本学昇格記念日
7月8日　前期授業終了
9日　補講日（11日まで）
12日　工学部前期末試験（20日まで）
法・文・経済・商・社会学部前期末試験（20日まで）
9月20日　夏季休業（9月20日まで）
21日　夏季休業　前期終了
29日　前期授業開始
10月1日　後期開始
11月4日　本学創立記念日
12月21日　冬季休業（7年1月7日まで）補講日（22日まで）
1月9日　授業再開
14日　後期授業終了
17日　法・文・経済・商・社会学部学年末試験（30日まで）後1日間　工学部学年末試験（30日まで）入試終了後2日間
3月20日　卒業式
21日　春季休業（31日まで）
下旬　在学生成績発表　在学生履修届受付
31日　学年終　後期終了

【大学院】

4月1日　学年始　前期開始
2日　在学生履修届受付（3月31日～2日）
6日　入学式　新入生オリエンテーション（8日まで）
7日　新入生履修届受付（8日まで）
11日　前期授業開始
27日　修士論文計画書（9月期修了）提出締切
7月19日　前期末試験（20日まで）
21日　前期授業終了
25日　修士論文（9月期修了）提出締切
9月20日　夏季休業（9月20日まで）
21日　後期開始　後期授業開始
25日　学位記（9月期修士）授与式
10月15日　修士論文計画書（3月期修了）提出締切
11月4日　本学創立記念日
12月21日　冬季休業（7年1月7日まで）
1月9日　授業再開
17日　文科系研究科修士論文（3月期修了）提出締切
2月10日　学年末試験（14日まで）
28日　工学研究科修士論文（3月期修了）提出締切
3月1日　修士論文口頭試問・公聴会（4日まで）
8日　博士課程前期課程修了者、博士課程後期課程単位修得者発表
23日　学位記（修士）授与式、単位修得証書授与式
29日　春季休業（31日まで）
31日　在学生成績発表（31日まで）
学年終　後期終了

◇…厚生関係…◇

【奨学金】

4月4日　日本育英会・大阪府育英会進学届（予約採用）受付（6日まで。大阪府は20日まで）
在学届
大阪府育英会奨学生の奨学金資格確認（5日まで）奨学金制度説明会（経済・商・社会学部新入生）
7日　日本育英会奨学生出願書類受付（人学院在学採用8日まで）
関西大学奨学金（関西大学奨学生出願書類受付）
日本育英会奨学金（関西大学奨学生出願書類受付）
財団・大阪育英会（学部4月募集）
日本育英会奨学生（大学院予約）採用手続
日本育英会奨学生（学部予約）採用手続
日本育英会奨学生の奨学金受領資格確認（25）
5月中旬　日本育英会奨学生採用手続（大学院）
下旬　大阪府育英会奨学生の奨学金資格確認（23・24日）
6月中旬　関西大学奨学生採用手続（学部・大学院）
下旬　日本育英会奨学生採用手続（学部）
7月上旬　日本育英会奨学生募集説明会
9月下旬　関西大学奨学生募集説明会
10月上旬　（奨学生出願書類受付）
同　右　（大学院予約採用・学部9月募集）
下旬　日本育英会奨学金返還説明会
11月中旬　関西大学奨学金返還説明会
大阪府育英会奨学生の奨学金資格確認（1・18日）
下旬　日本育英会奨学生の奨学金受領資格確認（24）
12月上旬　関西大学奨学金（9月）採用手続・同（大学院予約）採用候補者決定手続
1月上旬　日本育英会・関西大学奨学生募集説明会
中旬　財団・大阪育英会（新2～4年次生）
3月下旬　日本育英会・関西大学奨学生募集説明会（新2～4年次生）
（注）平成6年度日本育英会・関西大学・財団・大阪府育英会奨学生募集説明会（新2～4年次生）は、6年3月末に実施済み。

【学生寮・下宿・「黒菱山の家」】

6月上旬　学生寮入寮希望者募集要項の公告
7月上旬　学生寮入寮出願の受付開始
9月上旬　入寮出願者の第1次（書類）選考
中旬　入寮出願者の第2次（面接）選考
12月上旬　学生寮入寮希望者（在学生）募集要項の公告
21日　「黒菱山の家」年末年始特別利用取扱期間（7年1月7日まで）
1月上旬　学生寮入寮出願者（在学生）の受付開始
中旬　2～4年次生の下宿紹介中止へ新入生の受入準備のため2月末日まで）
3月上旬　入寮出願者の第1次（書類）選考
中旬　2～4年次生の下宿紹介再開
入寮出願者の第2次（面接）選考

◇…保健管理センター関係…◇

4月7日　学部第1学年（4年次・4年次）男子学生・大学院男子学生健康診断（15日まで）…千里山第2体育館
学部第2部（1・2・4年次）男子学生健康診断（8日まで）…千里山第2体育館
学部第1部（2年次）男子学生健康診断（15日
11日　学部第1部（1・4年次）女子学生健康診断（21日まで）…千里山第2体育館
18日　学部第1部（2年次）女子学生・大学院女子学生健康診断（19日まで）…千里山第2体育館

◇…就職関係…◇

4月7日　産業研究会（12日まで）
「求職票」受付　第1部（経済学部）
8日　第1部（商学部）
9日　就職模擬試験（第1部文科系・第2部）
「求職票」受付　第1部（社会学部）
第2部（全学部）
11日　第1部（法学部・文学部）
〃
16日　就職模擬試験（工学部）
18日　就職セミナー（20日まで）
21日　公務員試験説明会（28日まで）

総合情報学部スタート

総合情報学部の発足にあたって

総合情報学部長　高木　教典

四月一日、初めての新入生を迎えて、総合情報学部がスタートをきります。長年にわたる全学的な支援のもとに、新しく完成した高槻キャンパスの学舎に、ふくらませ希望に満ちた学生諸君を迎え入れ、いよいよ総合情報学部の教育活動が始動するわけです。

十有余年前の土地取得からはじまって、総合情報学部の設立計画の決定、文部省への申請の準備、文部省の認可、初めての入学試験の実施、といったプロセスを振り返りますと、この間どれだけ多くの関係者がかかわり、努力を傾注してきたかがしのばれます。それらの努力に報いるためにも、期待に十分応えるような学部作りをしていかなければと、責任の重大さを感じているところです。

総合情報学部は、新しい学部として、新しい試みを随所に取り入れています。「文理総合型」というのが、学部のコンセプトですし、セメスター制を導入し、カリキュラムでは、モデルを提示しますが、学生の一自分流、の選択を尊重します。教員は、シラバス（授業計画）による授業を行い、学生からの評価を受けることにしています。

当初は、どんな学部かよく分からないという批判を受けましたが、私達は積極的に学部の特徴を訴えてきました。その甲斐ありまして、非常に優秀な入学生に恵まれ、希望に満ちたスタートをきることが出来ますことを喜んでいます。誕生後には、また新しい多くの問題に直面することでしょうが、教職員一同、心を合わせて、当初の夢と希望の実現に向けて、努力をしていく所存です。何分誕生したばかりの学部ですので、引き続き皆様方の暖かいご支援とご指導をお願い申し上げる次第です。

大学人事

四月一日付で新役職者が次のとおり発令される。

学部長　教授　高木　教典
学部長代理　教授　井上　宏
学生主任　教授　鵜飼　康東
同　教授　江澤　義典
学生相談主事　教授　宇佐見大市
教授　山内　昭
同　教授　上島　紳一
教授（文学部助教授より）　鵜飼　康東
教授（経済学部助教授より）　井上　宏
教授（社会学部教授より）　高木　教典
教授（社会学部教授より）　江澤　義典
教授（工学部助教授より）　宮下　文彬
教授（工学部教授より）　辻　光宏
助教授（社会学部助教授より）　青山　千彰
助教授（工学部専任講師より）　木村　壽夫
助教授（工学部専任講師より）

新任役職者紹介

高木　教典　学部長

平成四年、東京大学定年退官を期に、本学社会学部に着任、新学部の総合情報学部初代学部長にご就任。

東京大学経済学部、大学院社会学研究科を経て、昭和三十六年に東大新聞研究所に入所、以来三二年余り、一貫して新聞研究所で、研究と教育に当たってこられた。同研究所長、全国国立大学研究所長会議会長などを歴任、同研究所の「社会情報研究所」への改組を果たされて退官。

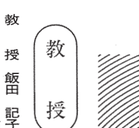
内外のマスコミュニケーション学会に多大の影響を与えてこられ、現在、日本マスコミュニケーション学会の会長としてご活躍。新聞・放送などのメディア産業論に造詣が深く、郵政省、自治省など多くの調査研究会議の座長・会長を歴任。同認、お茶を飲みながらの談笑がお好き。

メディア産業論に造詣深い

長の要職もつとめられ、行政・政策面で貢献され、郵政省からは二度にわたる大臣表彰を受けておられる。

意思堅固で大好きだった煙草もピタリと止められ、今はコーヒー党のヘビー級を自認、お茶を飲みながらの談笑がお好き。

教授

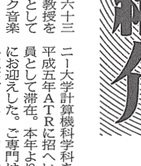


教授　飯田　記子

名古屋生まれの神戸育ち。昭和三十八年東京理科大学数学科を卒業、日本電気（株）に就職。その後、東京大学海洋研究所で海洋物理学の研究を開始したが、四十四年に京都大学大型計算機センター助手となり、情報工学にひ

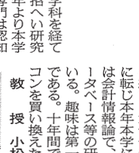
教授　加藤　隆

早稲田大学在学中に米国留学。マサチューセッツ工学院卒業後、カリフォルニアへ渡ん。百八十人年間講師、六十三年学術情報センター助教授を経て、本年本学に教授として着任。趣味はクラシック音楽鑑賞と歌唱。



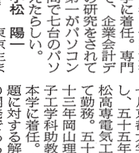
教授　川口　正昭

六年大阪大学理学部卒業、二十七年月京都大学助手になり、日本で初めての共同利用研究所・基礎物理学研究所の設立を体験。その後三年間米国に滞在、帰国後東京教育大学助手、大阪大学基礎工学部助教授、筑波の高エネルギー物理学研究所教授を経て、神戸大学教養部教授を歴任。チョウをあつめる趣味をお持ちだとのこと。



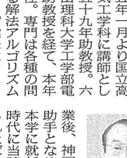
教授　ノーマン・D・クック

アメリカ出身。プリンストン大学、東北大学、オックスフォード大学、チューリッヒ大学で学究生活を送ってきた。仕事は常に趣味と結びついていて、コンピュータ・ソフトウェアの開発、学生向けボードゲームの考案もした。ギョーザ、すし、テニス、ヨットを好まれるが、カラオケはお断りということである。



教授　黒葛　裕之

東大阪市生まれ。昭和四十九年神戸商科大学商経学部卒業。同大学院博士課程修了。企業の研究所に二十一年間勤務の後本年本学に着任。専門は原子核理論、遺伝的アルゴリズムの工学問題への応用。趣味はゴルフとジャズ鑑賞とのこと。



教授　細川　藤次

高知県出身。昭和二十八年大阪大学理学部数学科卒業、数学科を卒業、特にピアノ。落語鑑賞はラジオ等から録音したテープが三百本あまり。

教授　和田　葉子

昭和五十二年本学文学部英文学科を卒業。五十七年同大学理学部数学科卒業、昭和五十一年同大学物理学科卒業。民間企業で実務を経験の後、四十六年東洋大学、創価大学、阪南大学経営情報学部を経て、本学に着任。経営情報システムの構成様式についての研究の主な研究テーマは、和三十七年に卒業。民間企業から大学の世界に入られた。

教授　吉田　富章

東京生まれ。昭和五十三年東京大学理学部物理学科卒業。同大学院に進学し五十八年理学博士。理学博士。東京大学理学部物理科学専攻、本学学部に就任。専門は原子核理論、計算機関係ではハードウェア・アーキテクチャや数値解析の研究に従事。趣味は音楽、特にピアノ。落語鑑賞はラジオ等から録音したテープが三百本あまり。

総合情報学部スタート

新任教員紹介

教授

教授　吉澤　清美

専門分野は言語教育、言語習得。昭和五十年から米国ウォレン・ウィルソン大学に留学。五十六年にミシガン大学大学院修士課程を修了。五十六年に教授として着任。趣味は映画鑑賞と落語を聞くこと。

助教授　加藤　雅人

昭和五十三年京都大学文学部哲学科卒業、西洋哲学史専攻。同大学院博士課程、研究生講師、助教授を経て、本年本学助教授。平成元年より三年まで英国ケンブリッジ大学のトリニティカレッジにて十三世紀末の哲学史の研究に従事。趣味はスポーツ（テニス、スキーなど）をすること。

専任講師　亀井　克之

関大一高から阪外国語大学ランス語学科へ、昭和六十年卒業。大阪府立高校教諭。平成元年同大学院博士課程フランス語学専攻修了。同学位取得。その後、龍谷大学などで日本語教育、コミュニケーション学科にて現在に至る。趣味は音楽とミステリー。

専任講師　久保田真弓

昭和五十三年東京理科大学数学科卒業。日本語教師として異色の経歴の持ち主で、五十五年青年海外協力隊に参加し理数科教師として西アフリカ、ガーナへ、平成三年インディアナ大学コミュニケーション学科にて博士号取得。その後、龍谷大学などで日本語教育、コミュニケーション教育を担当。研究はバイリンガル話者のあいづちの日米比較。

専任講師　施　學昌（ぐ）

台湾生まれ。80年来日。85年に本学の商学部卒業。同大学院博士課程修了。専門は国際金融、情報処理。現在の主要研究テーマは、情報政策の決定、

専任講師　西田　晃一

大阪府の出身、昭和六十年関西大学文学部教育学科卒業。六十二年同大学院文学研究科修了。野村学芸正教授の下で認知心理学を研究。二年間大学院社会学研究科博士課程単位取得。辻岡美延教授の下で多変量解析を研究した。矛盾の解決過程や時間評価の問題検討を進められている。スキー、テニス、写真、音楽、絵など話題に豊富な先生である。

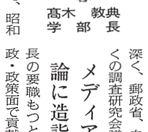
専任講師　広兼　道幸

広島で生まれ、三十三年間広島市立高校教諭。昭和五十八年本学に着任。趣味は、写真撮影と熱帯魚飼育。

助教授

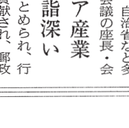
助教授　阿辻　茂夫

京都市生まれ。同志社大学工学部に入学。工学部卒業後は、システムエンジニアとして勤務。実務を通して人間組織と情報システムの有機的関係に興味をもたれた。龍谷大学大学院では経営学を専攻、修士・博士課程をおえ、関西女学院短期大学、桃山学院大学を経て、本学に着任。趣味は、テニスと聞く。



助教授　小田原　敏

新聞といった既存のマス・メディアの枠組みにとらわれないメディア論をめざしている。またテレビ朝日のCNN DAY WATCHのキャスターという変わった仕事もつとめた。趣味は、とにかく外で遊ぶことだそうで、スキーやスケートなどウインタースポーツが特にがきだとのこと。



助教授　加藤　敏幸

昭和四十八年立命館大学法学部卒業後、中教授に師事して五十三年関西大学大学院へ進学する。博士課程修了後、五十九年本学非常勤講師を経て、本年助教授に就任。研究は情報犯罪一般に及び、情報公開との関連で「政治倫理と刑事法」まで手がける。温厚な人柄ながら内に秘めた情熱家。趣味はテニス、スキー、カメラ、鉄道模型と多彩。

助教授　加藤　雅人

昭和五十三年京都大学文学部哲学科卒業、西洋哲学史専攻。同大学院博士課程、研究生講師、助教授を経て、本年本学助教授。平成元年より三年まで英国ケンブリッジ大学のトリニティカレッジにて十三世紀末の哲学史の研究に従事。趣味はスポーツ（テニス、スキーなど）をすること。

助教授　太谷　晋市

富山県生まれ。昭和五十年に関西学院大学法学部政治学科を卒業後、同大学院を経て六十年に岩手大学人文社会科学部、本年より総合情報学部に就任。専門は行政学、地方自治論で主に財務行政や広域行政の分野に関心を持つ。

助教授　久保田賢一

横浜生まれ。昭和四十八年に中央大学卒業後、静岡県で高校教師。五十五年に青年海外協力隊に参加し、アルジェリア、ベトナム、タイ、フィリピン、メキシコ等へ出かける。平成三年インディアナ大学でPhD取得後、関西大学情報処理センターに勤務し、本年から総合情報学部助教授。「メディアと教育環境の設計」が現在の研究テーマである。週末は無農薬の野菜作りに精をだす。

助教授　桑原　尚史

昭和五十六年本学文学部卒業後、本学大学院修士課程、博士課程を修了、鹿児島女子大学助教授を経て、総合情報学部開設と同時に着任された。先生の研究テーマは、認知社会心理学であり、最近は、感性情報処理過程にも強い関心を抱いておられる。六十二年にはグループ・ダイナミックス学会研究奨励賞、平成二年には日本心理学会研究奨励賞を受賞。

助教授　塩村　尊

広島生まれ。広島大学、神戸大学大学院を経て、香川大学商業短期大学部に着任後、本年、本学に着任された。主にしてミクロ経済学を研究しているが、最近では不動産の経済理論への応用にも関心を持っている。あるいろものフジオ番組本年度から、本学に着任。趣味はテニスと音楽、美術鑑賞。

助教授　山本　英一

岡山市生まれ。大阪外国語大学英語学科卒業。英語に限らず言語理論に関心があり、同大学院博士課程で、英語学を専攻する。昭和五十七年から近畿大学教養部で英語を教える。音声面を重視した学年より現職。現在の主要研究テーマは、情報政策の決定、

助教授　林　武文

長野県の生まれ。名古屋大学工学部機械学科を卒業後、同大学大学院博士課程前期課程を経て、昭和六十年N大学機械工学科に入社。平成元年から三年間、ATR視聴覚機構研究所へ出向し、人間の視覚認知メカニズムの研究に従事。NTTに復帰してロボットの視覚センサシステムの開発をした後、本年総合情報学部へ助教授として着任。工学博士。趣味は音楽と旅行。

助教授　八島　智子

神戸市立外国語大学英米学科卒業。在学中に経験を積まれてから、母校大学に留学。卒業後、通訳などの経験を積まれた。帰国後、大学助手、同講師を経て本年本学に着任。趣味は相撲観戦。各取組の中に美、技、闘志が見えるからとのこと。

専任講師　伊藤　俊秀

神奈川県の出身。昭和五十六年京都大学文学部資源工学科を卒業後、富士通（株）に入社。国際協力事業団、国際交流基金などのシステム開発に従事。平成元年大阪国際大学助手、同講師を経て本年本学専任講師に就任。画像解析をおもな研究テーマとしておられる。現在の趣味は料理。最近、運動不足解消のためにテニスを始めたいと考えておられる由。

専任講師　岡本　哲和

昭和五十七年に関西大学法学部卒業。同大学院博士課程前期課程に進み、山川雄巳教授の下で政治学原論を専攻。同大学院博士課程後期課程、本学非常勤講師を経て本年より現職。現在の主要研究テーマは、情報政策の決定、

専任講師　施　學昌（ぐ）

台湾生まれ。80年来日。85年に本学の商学部卒業。同大学院博士課程修了。専門は国際金融、情報処理。現在の主要研究テーマは企業の情報ネットワークのありかたである。前任校の関西女学院短期大学では、「経営情報論」を担当されていた。本年本学に着任。趣味は、写真撮影と熱帯魚飼育。

専任講師　田中　成典

兵庫県の生まれ。昭和六十一年本学工学部土木工学科卒業。六十二年同大学院工学研究科修士課程を修了。同年（株）本学工学部土木工学専攻を修了。工学修士。同年（株）洋情報システム社。人工知能をシステム開発に従事。工学部の三上市蔵教授のご指導下で本学工学院博士課程に入り、光通信の研究員として活躍。本学には本年、専任講師として着任。専門は土木工学と情報工学である。

助手　岡田　朋之

大阪府の生まれ。昭和六十二年立命館大学理工学部卒業。大阪大学大学院産業社会学研究科修了。本年本学に着任。修士論文では「伝言ダイヤルのコミュニケーション論考察」をまとめる。現代の高度なメディア環境におけるコミュニケーションと文化を社会学的にとらえる枠組みを模索中である。趣味はグルマ。B級ライセンスも保持する。

助手　小林　孝史

平成四年関西大学学部電工学科を卒業。本年同大学院工学研究科博士課程前期課程に入学。同年本学に着任。趣味は音楽と旅行。

助手　梶井　康史

滋賀県出身。平成元年大阪大学工学部電信工学科卒業。本年博士課程後期課程を修了。同年総合情報学部の助手に着任。大学院では、情報伝送媒体である光波とマイクロ波の技術の融合を目指して「半導体プラズマによるマイクロ波の光制御法に関する研究」に従事。UNIXのウィンドウ管理ツール"fdu"の開発にも貢献。趣味は旅、特に北海道には造詣が深い由。

助手　小内　昭

千葉市の生まれ。東北大学理学部地理学部を専攻し昭和三十七年に卒業。民間企業で実務を経験の後、四十六年から大学の世界に入られた。東洋大学、創価大学、阪南大学経営情報学部を経て、本年本学に着任。趣味は、ゴルフ、ダンス、ボウリングなど精神に何よりも魅力を感じるとおっしゃっている。

教授　深田　陽司

神戸市出身。昭和四十六年東京大学計数工学科卒業。四十一年同大学院修士課程修了。企業の研究所に二十一年間勤務の後本年本学に着任。企業でもコンピュータビジョンなど、一貫して画像を対象とする研究に従事された。趣味はテニスとゴルフを楽しむ。ここ最近、水泳、釣り（海）、バイク（オフロード）を始められた。「シンプル イズ ベスト」をモットーにされている。

教授　吉田　均

彦根市生まれ。昭和四十六年京都大学理学部卒業、昭和五十一年同大学物理学科修士課程を修了。四十六年同工学部助手。講師、助教授を経て本年本学に着任。専門はファジィ理論、ニューラルネットワーク理論、遺伝的アルゴリズムの工学問題への応用。趣味はゴルフとジャズ鑑賞とのこと。

教授　山名　年浩

京都生まれ大阪育ちで、大学院は神戸商科大学（博士課程）。もともとマクロ経済学の研究から、この分野を中心に著書・翻訳書が多い。前任の大阪教育大学助教授時代から「満員御れのタレ幕の下」などマスコミで取り上げられたこともあるから本学において研究や教育の分野でこのパワーがどれだけ発揮されるか期待されている。

教授　吉田　富章

東京生まれ。昭和五十三年東京大学理学部物理学科卒業。同大学院に進学し五十八年理学博士。理学博士。東京大学理学部物理科学専攻、本学学部に就任。専門は原子核理論、計算機関係ではハードウェア・アーキテクチャや数値解析の研究に従事。趣味は音楽、特にピアノ。落語鑑賞はラジオ等から録音したテープが三百本あまり。

教授　和田　葉子

昭和五十二年本学文学部英文学科を卒業。五十七年同大学理学部数学科卒業。昭和五十一年同大学理学部物理学科卒業。民間企業で実務を経験の後、四十六年東洋大学、創価大学、阪南大学経営情報学部を経て、本年本学に着任。趣味は、ゴルフ、ダンス、ボウリングなど精神に何よりも魅力を感じるとおっしゃっている。

教授　佐野　匡男

奈良生まれ。昭和四十一年東京大学計数工学科卒業。四十六年東京大学大学院修士課程修了。企業の研究所に二十一年間勤務の後本年本学に着任。企業でもコンピュータビジョンなど、一貫して画像を対象とする研究に従事された。趣味はテニスとゴルフを楽しむこと。

教授　黒葛　裕之

東大阪市生まれ。昭和四十九年神戸商科大学商経学部卒業。同大学院博士課程修了。企業の研究所に二十一年間勤務の後本年本学に着任。専門は原子核理論、遺伝的アルゴリズムの工学問題への応用。趣味はゴルフとジャズ鑑賞とのこと。

教授　細川　藤次

高知県出身。昭和二十八年大阪大学理学部数学科卒業、数学科を卒業、特にピアノ。落語鑑賞はラジオ等から録音したテープが三百本あまり。

教授　和田　葉子

昭和五十二年本学文学部英文学科を卒業。五十七年同大学理学部数学科卒業。昭和五十一年同大学理学部物理学科卒業。民間企業で実務を経験の後、四十六年東洋大学、創価大学、阪南大学経営情報学部を経て、本年本学に着任。趣味は、ゴルフ、ダンス、ボウリングなど精神に何よりも魅力を感じるとおっしゃっている。

教授　吉田　均

彦根市生まれ。昭和四十六年京都大学理学部卒業、昭和五十一年同大学物理学科修士課程を修了。四十六年同工学部助手。講師、助教授を経て本年本学に着任。専門はファジィ理論、ニューラルネットワーク理論、遺伝的アルゴリズムの工学問題への応用。趣味はゴルフとジャズ鑑賞とのこと。

教授　山名　年浩

京都生まれ大阪育ちで、大学院は神戸商科大学（博士課程）。もともとマクロ経済学の研究から、この分野を中心に著書・翻訳書が多い。前任の大阪教育大学助教授時代から「満員御れのタレ幕の下」などマスコミで取り上げられたこともあるから本学において研究や教育の分野でこのパワーがどれだけ発揮されるか期待されている。

教授　吉田　富章

東京生まれ。昭和五十三年東京大学理学部物理学科卒業。同大学院に進学し五十八年理学博士。理学博士。東京大学理学部物理科学専攻、本学学部に就任。専門は原子核理論、計算機関係ではハードウェア・アーキテクチャや数値解析の研究に従事。趣味は音楽、特にピアノ。落語鑑賞はラジオ等から録音したテープが三百本あまり。

総合情報学部スタート

平成6年度行事予定表

□…学務関係…□
4月1日　春学期開始　春学期入学式
2日　新入生指導行事（5日まで）
6日　春学期授業開始
7日8日　本学昇格記念日
12日　春学期授業終了
12日13日　春学期試験（20日まで）
12日20日　夏季休業（20日まで）
9月12日　春学期成績発表
14日　秋学期履修届受付
20日　秋学期開始　授業開始
21日　秋学期試験（30日まで）
11月4日　本学創立記念日
12日21日　夏季休業（1月7日まで）
1月9日　授業再開
14日　秋学期授業終了
17日　秋学期試験（31日まで）
3月21日　春季休業（31日まで）
28日　秋学期成績発表
30日　春学期履修届受付
31日　秋学期終了

□…厚生関係…□
【奨学金】
4月2日　奨学金制度説明会
4日　日本育英会・大阪府育英会進学届（予約採用）　受付（6日まで。大阪府は20日まで）
在学届　（20日まで）

中旬　日本育英会・関西大学　奨学生出願書類受付
財団・大阪府育英会　（4月募集）
5月中旬　日本育英会奨学生（予約）採用手続
7月上旬　日本育英会奨学生採用手続
関西大学奨学生採用手続
日本育英会（）　奨学金募集説明会（9月募集）
9月下旬　関西大学　奨学生出願書類受付
10月上旬　同右
11月中旬　大阪府育英会奨学生の奨学金賞格確認
下旬　日本育英会奨学生採用手続
12月上旬　関西大学奨学生採用手続
日本育英会奨学生採用手続
3月下旬　日本育英会・関西大学　奨学生募集説明会
財団・大阪府育英会　新2～4年次生

【学生寮・下宿・黒菱山の家】
6月上旬　学生寮入寮希望者募集要項の公告
7月上旬　学生寮入寮出願の受付開始
9月上旬　学生寮入寮出願者の第1次（面接）選考
中旬　入寮出願者の第2次（面接）選考
12月上旬　学生寮入寮希望者（在学生）募集要項の公告
21日　「黒菱の家」本年度分新規利用取扱期間（7年1月7日まで）
1月上旬　学生寮入寮出願者（在学生）の受付開始
3月上旬　入寮出願者の第1次（書類）選考
中旬　入寮出願者の第2次（面接）選考
4月上旬　定期健康診断（5日まで）……高槻キャンパス体育館

□…保健管理センター関係…□
4月4日

図書館だより

西田家寄贈 近世・近代の絵画展

山岡　泰造

平成三年、帝塚山在住の西田奎一氏から、大阪に縁りのある書画家の作品六十一点が本学図書館に寄贈された。これらは西田氏の父君で逸堂と号した故幾太郎（一八九八―一九七七）の蒐集にかかるもので、逸堂が藤沢南岳の弟子であったことから、泊園文庫を管掌し藤沢家学を顕彰する本学に寄贈されることになった。このたび、その一部を陳列し大方の鑑賞に供するもので、今回の選択は、自ら画筆を揮った逸堂自身の作品と、その師匠に当たる書画家ならびに親しく交際のあった画家たちの作品を中心とした。

逸堂は北久太郎町の織維関係の富裕な商家西田家の養子として鍾愛されたが、養父は商才に乏しいのを見抜いて家作を与え、専ら学問と遊芸の道を薦めた。逸堂は中学を卒えると藤沢南岳について漢学を学び、傍ら謡曲・狂言や篆刻・書画を習った。良き時代の大阪の旦那芸の典型であったと思われる。篆刻の師上田丹崖は熊本の人で京都に住し南画を良くした。逸堂の画風にはこの人の影響が大きい。画の師水田竹圃（一八八三―一九五八）は大阪本町の生まれで、姫島竹外に南画を学び漢学にも通じていた。京都に住んで日本南画院の経営に携わり、文展や帝展にも出品し、戦後は日展に依嘱出品した。清朝末期の上海派の画風をベースに独自の工夫を加えた爽やかな作風を示す。竹圃の歿後は弟の水田硯山にも兄事した。硯山も南岳に漢学を学び、日本南画院の理事を務め、帝展・日展で活躍した。

画家の友人としては菅楯彦、その女弟子の生田花朝、楯彦の養子の菅眞人がある。楯彦（一八七八―一九六三）は近代を通じて最も大阪的な画家といえる。鳥取の生まれで画家の菅盛南を父にもつが、幼くして大阪に移住し、画筆で一家を支えた。画は独学で、狩野派・大和絵・円山四条派・浮世絵・宋元画など諸派を広く学び、本居派の鎌垣春岡に国学と有職故実を、山本憲に漢学を学び、佛教美術にも詳しく、雅楽・舞楽を愛好した。大和絵風の歴史画や浮世絵に連なる大阪の風物画を得意とするが、大和絵の柔弱や浮世絵の卑俗を脱却し、骨太でありながら洒脱さを示す。東西の違いはあるが、鏑木清方や前田青邨と通じ合うものがあり、実際親しく交わった。戦後は日展で活躍し、大阪名誉市民に選ばれた。生田花朝（一八八九―一九七八）は天王寺上之宮町の生まれで、父の南水に俳句を学び、藤沢黄坡に漢学、近藤尺天に国学を学んだ。楯彦の精神をよく受けつぎ清雅な画風を示す。北野恒富にも師事し、帝展・文展・日展に出品している。

他に西田家に出入した画家としては大阪を代表する美人画の名手北野恒富（一八八〇―一九四七）とスケールの大きい南画家で現今大阪の画家では最も値段の高い矢野橋村がある。恒富は南画を学ぶと共に、月岡芳年系の浮世絵師につき、新聞小説の挿絵を描いた。院展・日展で活躍し、白燿社画塾を主宰するなど大阪画壇の重鎮であった。橋村も日本南画院の会長や院展の審査員を務め、美術教育にも熱心であった。

菅　楯彦
「蓬莱仙殿」

今回展観する逸堂の画巻は、山陽・山陰旅行中に目睹した風物に俳句を添えたもので、藤沢桓夫による「行雲流水帖」の題簽があり、同じく題辞には、「逸堂西田幾太郎先生ハ浪華ノ名家ニ生レ年少ヨリ好学ノ志篤ク詩文ヲ能クシ画才豊カニ悠々自適八十年ノ生涯ハマサニ昭和ノ大通ノ名ニ相応シキモノアリ」と言う。

逸堂は言うに及ばず、大阪の職業画家たちは一般に、文展・院展・日展など名利を求める場で活躍していても、その底には学問と生活と遊芸が渾然一体となった文人的精神とでも言うべきものがあり、それが時として画面に淡白さとなって表われ、物足らなさを感じることもある。現在の視点からすれば功罪ともにあろうが、これは江戸時代、木村蒹葭堂以来の誇るべき伝統である。（文学部教授）

◆平成六年度春季特別展
「西田家寄贈
近世・近代の絵画」
会期　四月四日(月)～五月十六日（月）
（祝日を除く午前十時～午後七時　但し、日曜は午後五時迄）
会場　総合図書館一階展示室

◆記念講演会
演題「近代大阪の絵画―恒富・楯彦・花朝―」
講師　文学部助教授　中谷伸生
日時　四月二十二日(金)午後一時～二時三十分
会場　図書館ホール（ご来聴歓迎）

派遣留学生を募集

平成6年度 バーミンガム大学
平成7年度 オーストラリア国立大学

本学では、「国際交流の促進と充実」を教学の柱の一つに掲げ、世界各国の八大学と学術交流協定を結び、積極的に交流を行っている。

そのうち、既に学生交流を行っているのは、アメリカ合衆国のジョージ・ワシントン大学をはじめとして六校であるが、このたび英国のバーミンガム大学との交換留学が正式に決定し、第一期派遣留学生を募集することになった。

バーミンガム大学では、既に三年前から夏期の短期英語セミナーを開催しており、その質の高い授業内容から、参加者の多くが長期の交換留学を待ち望んでいた。このバーミンガム大学と交換留学を開始することは本学の国際交流の推進にとって大変有意義なことである。

また、今回併せて平成七年度オーストラリア国立大学派遣留学生の募集も行う。

オーストラリアは学年暦が三月～十二月で他の協定校とは異なるため、十分な準備期間を設けるという趣旨から春期募集としている。

両大学とも派遣期間は一年間で、派遣人数は一～三人。出願期間は平成六年四月四日～二十八日。出願に当たってはTOEFLの得点（五二〇点以上）等若干の条件がある。

なお、この派遣留学には本学の「学生留学規程」が適用され、留学期間の修業年限への算入や単位認定等、教学上の措置が講じられる。

詳細については、国際交流センター事務室まで問い合わせられたい。（国際交流センター）

平成6年度 学術交流計画決まる

「国際交流の促進と充実」の方針のもとに、学術交流協定校との教員派遣事業ならびに招へい教授等招へい事業の本年度計画で現在決定しているのは、別表の通りである。（国際交流センター）

平成6年度交換派遣研究者の派遣計画一覧

大学名	派遣研究者氏名・所属	滞在期間	滞在計画
遼寧大学	文学部 鳥井　克之　教授	9月から10月（1か月）	(1)外文系日語教室にて2年次生を対象に、中国の現行学校文法体系に準拠した「句」「文」「複文」の中文日訳の講義 (2)遼寧大学日語教員とともに『基礎中文日譯』のテキストを共編著
	文学部 渡辺　幸博　教授	9月1日から9月30日（1か月）	(1)中国における現代哲学研究の現状を調査 (2)日本における現代哲学研究を紹介 (3)現代中国における孔孟、老荘思想研究の現状を調査
	工学部 芝田　隼次　教授	8月（1か月）	(1)専門分野（化学工学、分離工学、界面化学）に関する研究についての講演、討論及び検討会 (2)遼寧大学の学生、教員対象に日本の化学工業に関する一般的講義 (3)中国の大学における化学工学及び化学関係学科の教育と研究の実情を調査
東北大学	工学部 下間　頼一　教授	7～9月のうち（1か月）	(1)「漢字の窓よりみた古代中国技術」または「古代中国と古代エジプトにおけるチャリオット（二輪馬車）技術の比較考察」等のテーマでの講演 (2)東北大学における教育と研究の現状調査 (3)中国古代技術の実地調査
	工学部 山北　隆征　専任講師	8月（1か月）	(1)専攻科目（高電圧工学、電気材料工学）に関連する教員・学生との情報交換及び交流 (2)専攻科目（同上）に関連する学科のカリキュラム等の調査
カトリック・ルーバン大学	工学部 浦上　忠　教授	9月から10月（2か月）	(1)高分子膜の微細構造と透過分離特性との関係についての意見交換 (2)高分子膜の微細構造の決定因子についての討論 (3)カトリック・ルーバン大学の教育・研究施設の見学

平成6年度外国人招へい研究者の招へい計画一覧

資格	被招へい者の氏名・所属	国籍	受入れ機関	招へい期間	受入れ期間中の教育・研究活動計画
招へい研究員	Yasumasa Kuroda（ヤスマサ・クロダ）ハワイ大学 政治学部　教授	アメリカ合衆国	法学部 山川　雄巳　教授	4月10日～6月8日（2か月間）	(1)法学部・経済学部等のスタッフと日米関係の過去・現在・将来についての研究会 (2)法学部の学生を対象とした講演 (3)法学研究所でシンポジウム
招へい研究員	Ying-shi Yü（余英時）（ヨ・エイジ）プリンストン大学　教授	アメリカ合衆国	文学部 吾妻　重二　助教授	4月5日～5月4日（1か月間）	(1)古代から近現代に至る中国史・中国思想史に関する講演 (2)大学院の授業への参加（2回程度） (3)中国文学科教員との交流 (4)学外研究者との共同研究
招へい研究員	Rosemarie Morgan（ローゼマリー・モーガン）エール大学　講師	アメリカ合衆国	文学部 上山　泰　教授	9月1日～10月31日（2か月間）	(1)講義への参画・助言 (2)文学部の主催で講演会 (3)学内外での学会参加・講演・研究
招へい教授	Jonathan Rees（ジョナサン・リーズ）バーミンガム大学 外国人学生英語教育責任者	イギリス	文学部 坂本　武　教授	9月1日～7年8月31日（1年間）	(1)文学部英文学科における専門教育科目「専門英語(二)」を担当 (2)他学部において英語に関する授業を担当
招へい教授	Gabor Bakos（ガーボル・バコシ）ハンガリー科学アカデミー 経済研究所　研究員	ハンガリー	商学部 長砂　實　教授	4月1日～7月31日（4か月間）	(1)東欧経済事情についての特殊講義（2単位）を担当 (2)大学院において社会主義企業論特殊研究に関する講義（数回） (3)学生対象の講演 (4)日本の諸企業での調査
招へい研究員	Gerd Reinhold（ゲルト・ラインホルト）デュイスブルク大学　教授	ドイツ	社会学部 神谷　国弘　教授	9月21日～12月20日（うち2か月間）	(1)日本社会の社会学的研究に関する資料蒐集 (2)ドイツから見た日本社会に関する学部主催の講演 (3)日独社会科学会第3回大会に参加 (4)オープンハウスによる研究交流
招へい研究員	Hana Suzuki（ハナ・スズキ）ブタンタン研究所　研究員	ブラジル	工学部 鉄川　精　教授	10月3日～7年1月30日（うち3か月間）	(1)触手動物の種内変異、種間関係に関する遺伝生化学的手法による共同研究 (2)「ブラジルにおけるバイオテクノロジーの動向」及び「ブタンタン研究所の毒蛇類の遺伝生化学的研究」に関する講演
招へい研究員	Horst Kern（ホルスト・ケルン）ゲッティンゲン大学 産業社会学　教授	ドイツ	経済・政治研究所 大塚　忠　教授	9月から11月（2か月間）	(1)共同で工場調査を実施 (2)ドイツの労使関係及びドイツ統一の諸問題について講演
招へい研究員	Huang Kejin（ファン・ケジン）浙江大学　工業プロセス制御研究所　助教授	中国	工業技術研究所 高松武一郎　教授	9月1日～10月29日（2か月間）	(1)内部熱交換型蒸留塔の開発に関する共同研究 (2)工学部化学工学科の修士課程における講義 (3)工学部化学工学科のプロセスシステム工学研究室での共同研究

夏期英語セミナー 参加者を募集

ハワイ大学・バーミンガム大学

本学の協定校であるハワイ大学（アメリカ合衆国）とバーミンガム大学（イギリス）の全面的協力を得て、今年度も夏期英語セミナーを実施する。

このセミナーは夏休みを利用して海外の大学で短期集中語学レッスンを受け、生きた英語を身につけるというもので、英語学習だけに留まらず、見学旅行や大学の寮生活を通して、外国の文化や歴史、生活習慣や考え方を参加者一人ひとりが自分の感性で受けとめ、直接肌で触れることができる。学生諸君にとっては、これからの時代に必要な国際感覚を育む最適の機会といえる。

なお、セミナーの修了者には、一般教育の外国語科目の自由科目「海外語学実習」の二単位が与えられる。

【ハワイ夏期英語セミナー】
実施期間…平成六年七月二十日～八月十日
応募資格…本学学部学生
募集人員…六十人
申込期間…平成六年四月十八日～五月六日
参加費用…約三十二万円

【バーミンガム大学夏期英語セミナー】
実施期間…平成六年八月一日～八月三十一日
応募資格…本学学部学生及び大学院学生
募集人員…三十人
申込期間…平成六年五月九日～五月二十日
参加費用…約六十万円

なお、両セミナーとも選考試験を行い、参加者を決定する。詳細については、国際交流センター事務室まで問い合わせられたい。（国際交流センター）

▶編集後記◀

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。毎年この時期になると、新入生の若さを目の当たりにし、自分が一つずつ歳をとっていくことを実感させられます。

皆さんが充実した学生生活を送り、四年後に満ち足りた表情で胸を張って卒業されることを願ってやみません。

そのためには、登校の際に掲示板を見るなどして、大学が提供する情報を積極的に入手するよう心がけてください。

本紙も関西大学に関する情報を提供するメディアの一つです。本号は新入生向けの記事以外にも、四月開設の総合情報学部と博物館、留学情報等盛り沢山の内容となっています。これらの情報が皆さんのお役に立てば幸いです。（高橋・大和）

△訂正▽第二二五号第二面の「藤井啓行教授を悼む」記事中、四段三行目の「狙い」は「担い」の誤植でした。お詫びして訂正します。